

岡村 金太郎

没後80周年

日本藻類学会 2015

80 Years After His
Death:
Dr. Kintaro
OKAMURA

The Japanese Society
of
Phycology
2015



Lebdenia Okamurai Yamada

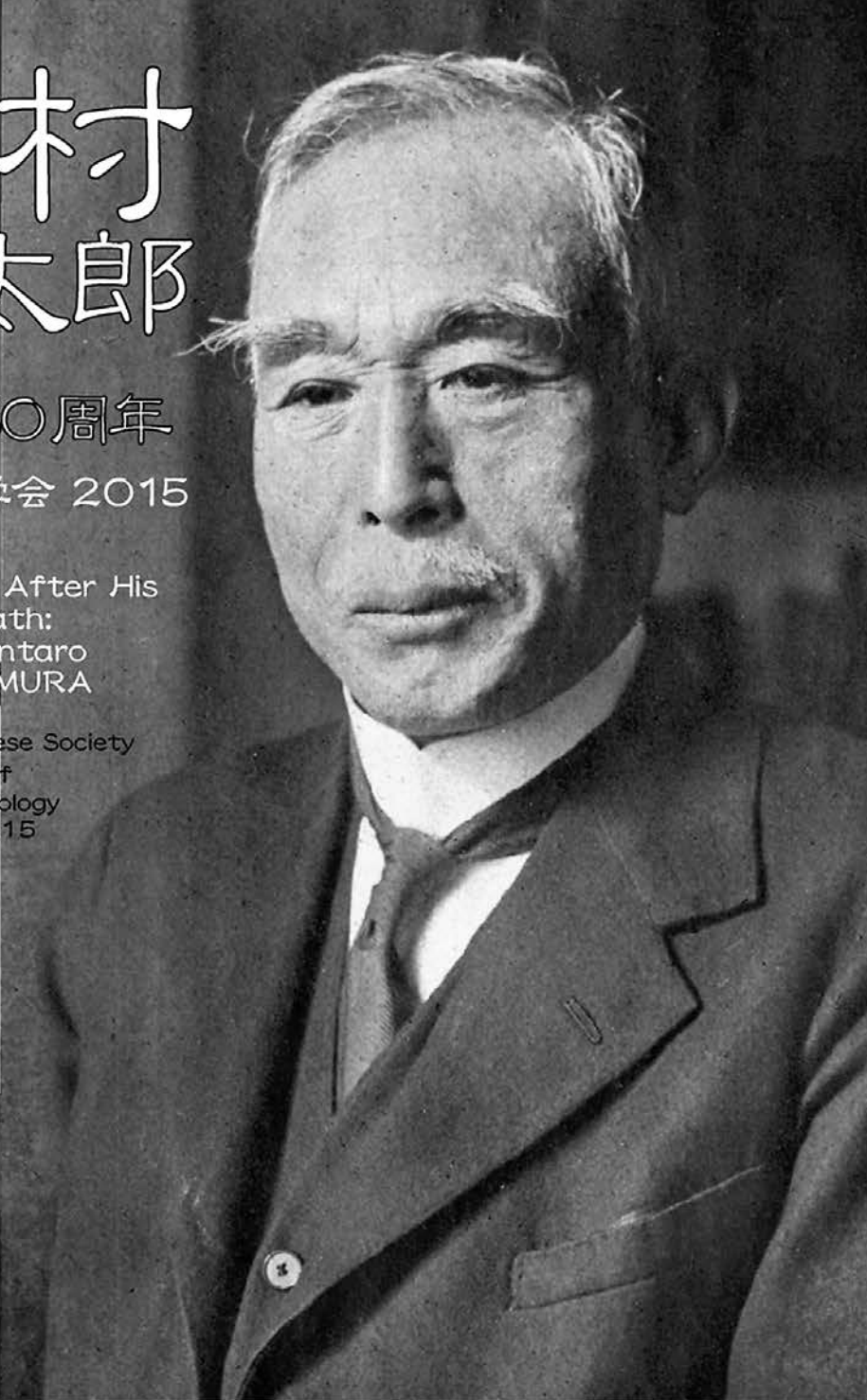
No. 913



北海道大学植物学雑誌
Vol. II, No. 1, p. 29, pl. 29

Type specimen

岡村金太郎
1935. 10/27/54



日本海藻誌

理学博士
岡村金太郎先生著

〔内容見本〕



発行所
内田老鶴園

東京日本橋区大塚町一丁目四番地
電話 551-1111 (代) 551-1112 (代) 551-1113 (代)

岡村金太郎 没後 80 周年

日本海藻学の開祖岡村金太郎は、1867年5月5日（慶応3年4月2日）に生まれ、22歳になった1889年（明治22年）、帝国大学大学院の矢田部良吉教授のもとで海藻の研究を開始し、以来46年間の半生を海藻学に捧げて、248篇に及ぶ報文と数多の弟子を日本の藻類学界に残した（北山 2013）。今年8月21日は、岡村が1935年（昭和10年）同日未明に逝去してから80周年にあたる。

岡村は日本で最初の海藻学者である。日本には岡村以前に海藻を専門とする研究者はおらず、日本の海藻は欧州の研究者によって記載されるばかりであったが、明治半ばの岡村の登場で、漸く日本産海藻の全貌が日本人の手で明らかにされる時代が幕をあけた。岡村は水産講習所（現在の東京海洋大学）に30年間勤務し第四代所長もつとめたが、その本性は水産学者ではなく理学者であって、研究・教育は植物分類学や植物地理学が中心だった。所長時代の1929年に断行した、講習所から試験部を分離し水産試験場とする改革も、岡村の強い理学志向の現れであったと思われる。学術的研究を優先するあまり、学生による排斥運動に遭って退官するも、名誉教授として研究に専念できるようになったことを喜んだという（黒沼 1985）。

岡村（1927）は『海藻学ヲオヤリナサイ』という随筆で海藻学を北海道の開拓地にたとえ、自分が道をつくり遠藤が村落をつくったという形容をした。岡村が切り拓いた

道は弟子たちによって拡張・延伸され、遠藤の村落を世界有数の都市に発展させた。今日みられる日本海藻学の隆盛は岡村が残した最後の業績であったとって過言ではないだろう。

【略年譜】

- 1867年 江戸芝新幸町（現在の港区新橋）に生まれる。
 - 1882年（15歳） 東京大学予備門に入学。
 - 1885年（18歳） 東京大学予備門を卒業し、東京大学理学部に入学。
 - 1889年（22歳） 帝国大学理科大学植物学科を卒業し、同大学大学院に入学。海藻学を専攻する。
 - 1891年（24歳） 水産伝習所教師を委嘱される。結婚（妻：スヘ）
 - 1892年（25歳） 第四高等中学校（金沢）教授に着任。
 - 1895年（28歳） 理学博士。
 - 1897年（30歳） 水産講習所講師。
 - 1899年（32歳） 『日本海藻属名検索表』。
 - 1900年（33歳） 『海藻学汎論』、『日本海藻圖説』第1冊。
 - 1902年（35歳） 『日本藻類名彙』。
 - 1906年（39歳） 水産講習所教授。
 - 1907年（40歳） 『日本藻類圖譜』第1巻第1集。
 - 1913年（46歳） 東京帝国大学農科大学講師を嘱託される。
 - 1914年（47歳） 水産講習所教務課長を併任。
 - 1916年（49歳） 『日本藻類名彙』2版。
 - 1922年（55歳） 『趣味から見た海藻と人生』。
 - 1924年（57歳） 水産講習所所長に就任。
 - 1930年（63歳） 『藻類系統学』。
 - 1931年（64歳） 水産講習所所長を解任。名誉教授。
 - 1935年（68歳） 日本水産学会会長。胃癌のため逝去（享年69）。
 - 1936年 『日本海藻誌』。
- （主に、山田（1935）による。年齢は誕生日での満年齢）

引用文献

- 北山太樹 2013. 海藻標本採集者列伝 (1) 岡村金太郎 (1867—1935). 海洋と生物 35(1): 56—57.
- 黒沼勝造 1985. 岡村金太郎先生. 採集と飼育 47(4): 176—180.
- 岡村金太郎 1927. 海藻学ヲオヤリナサイ. 植物研究雑誌 4(2): 35—39.
- 山田幸男 1935. 故岡村金太郎先生略傳. 植物学雑誌 49(587): 814—824.

（国立科学博物館 北山太樹）



1. 壮年（46歳）の肖像。1914年（大正3年）4月に撮影。『岡村金太郎博士五拾周年回想録』（黒沼ら編 1985）より（国立科学博物館所蔵）
2. 晩年（61歳）の肖像。1929年（昭和4年）2月2日撮影。『植物研究雑誌』第6巻4号より（国立科学博物館所蔵）
3. 退職後の1933年（昭和8年）、北海道帝国大学の山田幸男（右）を訪ねた岡村（66歳）（北海道大学理学部旧植物分類学教室所蔵）
4. オカムラグサ *Sebdenia okamurae* Yamada のタイプ標本（TNS-AL-R 292）。1937年（昭和12年）7月10日に昭和天皇が葉山御用邸近海で御採集。山田（1938）が新種記載した（国立科学博物館所蔵）
5. ムチモ *Mutimo cylindricus* (Okamura) Kawai et Kitayama の生態写真（三浦市油壺で筆者が撮影）
6. 『日本藻類図譜』第1巻第9集（岡村 1908）のヒビロウド *Dudresnaya japonica* Okamura 図版（pl. 41）の原図（国立科学博物館所蔵）
7. 『日本海藻誌』（岡村 1936）の販売広告用ページ見本冊子（筆者所蔵）